Ⅳ 今後に向けた課題

1．九十九里町の現状・問題等の要点

地域・公共交通に関する基礎情報、町民・利用客や運行事業者、関係者等からの情報・意見等により、本町の地域及び公共交通の現状・問題等の要点は以下のように整理されます。

地域の概況

（人口等の状況）

- 本町では、**人口減少、少子・高齢化**が進んでいます。
- 人口は、海岸沿いや町の中心に集まっていますが、**町域全体**に拡がっており、一**人暮らしの高齢者等も、広く分布**しています。路線バスのような定路線運行の手段で全てをカバーするのは難しい状況です。
- 人口減少、少子・高齢化は**今後も進む見通し**であり、外出手段の確保は、ますます重要になると考えられます。（**人口減少が進むなか、確保**していくこととなります。）

（施設の立地状況）

- 本町の**スーパー、病院等**の主な施設は、おおむね町の中心付近に立地しています。**町の周辺部**からこれらの施設を利用するには、歩いて行くには遠く、**何らかの交通機関が必要**となります。
- また、町内の施設数は限られており、**必要に応じて隣接市等の施設へ出かける**町民も多い状況です。
- 一部、**バス停が近くにないスーパー、病院**もあります。

（町民の状況）

- **通勤・通学**では、町内のほか、東金市等へ出かける人が多くなっており、**クルマ（自家用車等）を利用する人が突出して多い**のが現状です。
- この地域の**店舗等**へは、**ほとんどの人がクルマ**で来店しています。
- 町民の**定住意向は高い**状況です。移転したい人の中では、**交通や買い物が不便**なことが理由の上位となっています。
- 町民の**自動車や運転免許の保有率は高い**状況です。
- **クルマ中心の外出スタイル**となることで、**地球環境面、健康面、まちなかの賑わい等の面**での悪影響が危惧されます。

（観光等の状況）

- 夏季等には多くの人が**九十九里浜**を訪れています。近年、**観光客向けの店舗等**が増えています。
- 本町への**観光客**も、多くの人が**クルマで来訪**しています。（**宿泊客が減少**）

公共交通の現状

（公共交通のネットワーク）

- 本町には駅がなく、**複数の路線バスが町内を運行**し、**隣接市の駅との間**をつないでいます。
- **高速バス**が、**東京、千葉方面**との間をつないでいます。
- **タクシー**が、これらを**補完**する役割を担っています。

（路線バス・高速バスの状況）

- **路線バス**は、居住地でみると本町の**人口の８割近くをカバー**しています。ただし、路線バス等で**全域をカバーするには限界**があり、**公共交通不便地区**が残っています。
- **バスの利用客数**は、**決して多くなく**、以前から**減少傾向**にあり、**コロナ禍の影響でさらに落ち込み**ました。
- 路線バスは、主に**高齢者の町民の利用**が大半であり、**一部に学生**の通学利用もあります。高速バスは主に**町外からの来訪者**に利用されているように見受けられます。
- 大半の路線は、町外の乗降客が多くを占め、**本町内のバス停の乗降客は少ない**状況です。
- **海の駅九十九里まで**高速バスを延伸する実証運行も行われていますが乗降客は少ない状況です。

（タクシーの状況）

- 町内に**タクシー営業所**が**１社**あり、車両台数は４台です。タクシーの利用客も、**コロナ禍の影響で落ち込み**ました。
- タクシーは、町内の高齢者など、**ほぼ決まった人が利用**している状況と見受けられます。また、**１人での乗車が多い**状況です。
- 公共交通が存在しない地域の解消に向け、**「タクシー利用助成」**の実証実験に取り組んでいます。

（運行事業者の状況）

- 利用客の減少に加え、**乗務員の不足、高齢化**が全国的に**深刻な問題**となっており、さらに 2024 年の労働基準の改定もあり、バス、タクシーの事業者は、**きわめて厳しい運営状況**となっています。

本町のまちづくりにおける考え方（上位・関連計画等）

- **まちづくり**の最上位計画である「九十九里町総合計画」では、「**公共交通の利用促進**」（支援の強化、利用環境の向上、町民への周知、意識の醸成）、「**交通手段の充実**」（高齢者等の交通サービス等の支援）を主な取り組みとして掲げています。
- その他関連計画として、過疎地域持続的発展計画で、総合計画を踏襲した考え方が示されています。その他、地球温暖化対策、健康増進、高齢者福祉、子育て支援、観光等の分野においても総合計画にもとづく考え方による取り組みが行われており、公共交通が寄与できることがあると考えられます。

乗り場等の現地の状況

- 多くの町民や観光客が利用する店舗、病院、観光スポット等で、付近に**バス停のない施設**や、**バス停と建物が離れている施設**があります。
- 乗り場が**近くにあっても**、高齢者等が買い物等の**荷物を持って歩くにはやや負担が大きい**場合があります。
- 町内の**主なバス乗り場**は、猛暑、酷寒、荒天等の場合に**長時間待つ場所としては十分ではない**場所が多いように見受けられます。
- **バス等の情報提供は各社個別**に取り組まれています。一部の経路が異なるなど**複数の系統・路線**があり、また**複雑**で、公共交通や当地域に不慣れな人、高齢者にとっては**わかりにくい**状況です。
- 高速バスを降りた後の回遊手段や、電車と乗り継ぐバスがわからず**観光客が悩む**状況も見かけられます。

町民や利用客の現状・意識等

- ほとんどの町民は、**高齢者も含め**、日々の暮らし（買い物、通院、趣味・遊び等）で、**クルマ中心（運転、送迎・同乗）の外出スタイル**となっています。通院については、タクシーで出かける町民（高齢者等）も一部にいます。
- ふだん、**バス、タクシーにほとんど乗らない**町民が大半であり、**乗ったことがない**という人も少なくありません。
- 町民の**満足度は高くない**状況ですが、外出手段としてバス等を意識しておらず、便利か不便か、**乗らないのでよくわからない**という町民が多いのが現状です。
- 高齢者を含め、外出で**困り事等**のある町民は**比較的少ない**状況です。ただし、**町外の駅等への外出**について改善を望む声が比較的多くなっています。
- 乗り場まで歩くことや、車両の乗り降りが負担で、**乗合の公共交通の利用が難しい高齢者等**がおられますが、大半の方は、**タクシーや家族・親族のクルマで外出ができている**状況です。（その他、歩いて出かけることや一人で外出すること自体が難しく、**公共交通以外の福祉の個別送迎等が必要な方**もいます）
- 少数ながら**バスで通学している高校生**がいますが、テスト期間等で**下校時**に便が合わず**長時間待つこと**もあります。部活等のため**家族のクルマの送迎**で通学している高校生もいます。**友人との遊びでバスに乗る**こともあります。
- 公共交通は運転できない「弱者」（学生や高齢者）が利用するものであるという**意識**が町に浸透してしまっているように見受けられ、**高校生等も、将来はバス等を使わない暮らしをイメージ**している状況です。
- バスの**運行ルートがよくわからない**人が多く、特に**高速バスのことを知らない**人が少なくありません。
- 町民、来訪者、利用客等から、**町外との行き来に使う際のバスの便**を増やしてほしい、**バスと鉄道との乗り継ぎ**をよくしてほしい、**バスの運行状況をわかりやすく**してほしい、高齢者等の**乗り降り**をしやすくしてほしい、**ＩＣカード**を使えるようにしてほしい、検索サイト等の**ダイヤ情報を更新**してほしい、**タクシーチケット**を続けてほしいといった声が得られています。ただし、バス等が改善されても利用するかどうかわからないという人が多くを占めています。
- 現状で困り事のある人は少数ですが、クルマが利用できなくなること、公共交通を使えなくなること等の**将来の不安を抱える町民は多い**状況です。

2．今後に向けた課題･着眼点

地域・公共交通の現状や町民等の外出の実態・意識等をふまえ、本町の公共交通の今後に向けた課題・着眼点として以下が挙げられます。

●課題：　少子･高齢化が進むことも見据え、町内の外出手段を確保することが必要です。

本町では、居住地が町域に拡がり、施設の立地する場所が限られているため、外出するには徒歩以外の手段が必要ですが、少子・高齢化が進み、クルマを運転しない高齢者や一人暮らしの高齢者等が増える可能性があります。高齢者や障がいのある人、子育て世代がいつまでも地域で暮らせるよう、日々の外出手段を確保することが必要となります。

●課題：　運営が厳しく人口の減少も見込まれる中、将来にわたり、地域の公共交通を持続していくことが必要となります。

本町のバス、タクシー等の利用客は少なく、さらに、人口減少、乗務員の不足・高齢化によって、きわめて厳しい運営状況となっています。したがって、将来に向け、地域の実情に見合った形で、公共交通を確保し持続できるようにしていく必要があります。

●課題：　日々の外出の利便性を確保する方策を模索することが必要です。

公共交通を利用する町民等は少数であり、外出に関する困り事のない人が大半ですが、実際に公共交通を利用している人からは、鉄道との乗り継ぎや運行方法等について改善を望む声があります。利用客が少なく経費が収入を大きく上まわっている中で、運行方法やソフト面の調整・工夫等によって、町民の暮らしや学生の通学等の外出の利便性を確保する方策を模索することが必要です。

●課題：　福祉分野の取り組みとの連携も必要です。

現在は、クルマ（運転、送迎・同乗）で外出する町民が大半ですが、今後、少子・高齢化が進み、近くの乗り場まで歩くことや一人で出かけるのが難しい高齢者、家族のいない高齢者等が増える可能性があります。乗合の公共交通では支援しきれない人に対し、福祉分野の関係者による個別送迎等のサービスとの連携・役割分担も今後必要となります。

● 課題：　全体として、「わかりやすさ」を充実することが必要です。

高齢者も含め公共交通をほとんど使わない人が多い状況であり、今後は初めて利用する人や不慣れな人の利用が増える可能性があります。また、本町には複数の事業者によるバス路線・系統があり、わかりにくいとの声があり、実際にバス等を利用する人も、決まった路線の決まった便を使っているように見受けられます。この状況に対し、公共交通全体のわかりやすさを充実する必要があります。

● 課題：　主な乗り場の「待合環境」や「案内」を充実することが必要です。

他市町との行き来に利用するバス停や九十九里浜近傍のバス停が、本町の中で利用客が比較的多い乗り場となっています。その他、大型店や病院の最寄りのバス停も、今後の利用が増える可能性があります。待ち時間が長くても快適に過ごせ、また不慣れな人や来訪者等も安心して利用できるよう、待合環境や案内を充実することが必要です。

● 課題：　少しずつでも、クルマしか使わない外出スタイルの見直しや、公共交通への意識の醸成に取り組むことが必要です。

現状では、バス等の公共交通を利用しない町民が大半であり、クルマを使えるかぎり公共交通が外出手段として意識されていないように見受けられます。この状況では、将来まで公共交通を確保・持続しても利用されないことが危惧されるため、少しずつでも、クルマしか使わない外出スタイルを見直し、使える時に使える方法で公共交通を利用する意識を醸成していくことが必要です。

● 課題：　観光･まちの賑わいなど、多様な分野に貢献する方策を模索していくことが必要です。

現状では、町民だけでなく観光等の来訪者もクルマを利用する人が大半です。クルマによるドアツードアの移動と比べ、公共交通の利用と歩くことによる移動は、まちの賑わいなど、多様な面でよい影響があると考えられるため、関連する分野と考え方を共有し連携しながら公共交通の取り組みを行っていく必要があります。